

5歳児の保育所在籍率の推移を昭和45年度以降においてみると、県北、県中、いわきの各地域にあっては、在籍率がほぼ横ばいの状況にあり、相双、会津の各地域にあっては、在籍率が下降の傾向を示している。

また、県南地域にあっては、昭和48年度を境として在籍率が下降し、南会津地域にあっては、在籍率が上昇の傾向を示している。

昭和50年度における保育所在籍率は、南会津地域が最も高く60.0%で、次が会津、いわきの各地域でそれぞれ40.3%、33.5%となっている。

その他の県北、県中、県南、相双の各地域における在籍率は、15.5%から19.0%の範囲内に集中している(図2-1-5)。

これを5歳児の地域別幼稚園就園率との関連でみると、幼稚園就園率の高い地域ほど保育所の在籍率は低く、また、幼稚園就園率の低い地域ほど保育所の在籍率は高くなっている(図2-1-4、図2-1-5)。

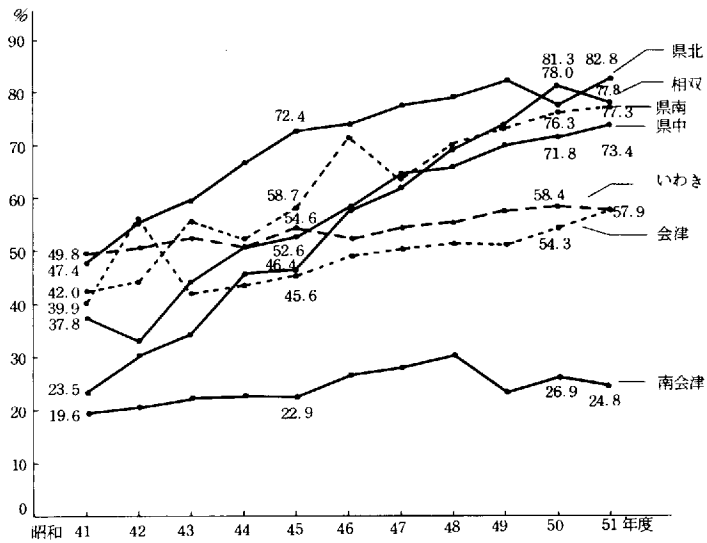
保育所における保育内容は「保育所保育指針」(厚生省児童家庭局)に定められてい

表2-1-1 幼稚園指導内容と保育所保育内容の比較(昭50)

幼稚園指導内容	保育所保育内容
1 健康	1 健康
2 社会	2 社会
3 自然	3 言語
4 言語	4 自然
5 音楽リズム	5 音楽
6 絵画製作	6 造形

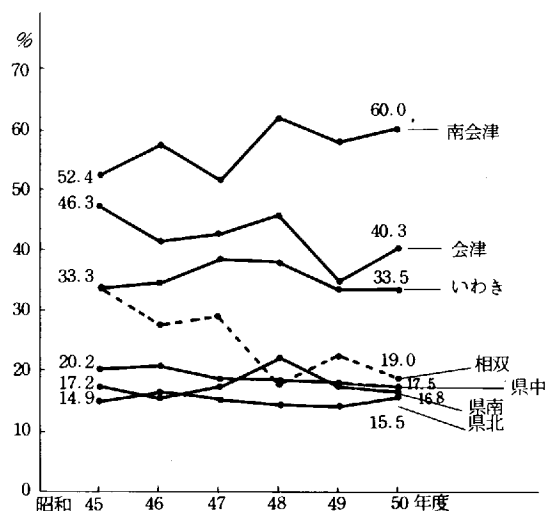
注:「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」による。

図2-1-4 5歳児の地域別就園率の推移



注: 1. 「総務課推計」(昭51)による。  
2. 就園率=(就園幼児数)÷(幼児数)×100

図2-1-5 5歳児の保育所在籍率の推移



注: 1. 「義務教育課調査」(昭46~昭51)による。  
2. 在籍率=(小学校1年の保育所在籍経験児童数)÷(小学校1年の児童数)×100

るが、それは幼稚園の指導内容と類似しており(表2-1-1)、保育所のみを設置している町村においては、保育所が幼児の教育的機能をも果たしていると想定される((4)幼稚園の設置状況)。

こうした実態から、文部省が「我が国の教育水準」(昭50)で指摘しているように、本県においても幼稚